

生活リテラシー。 ～自分流の豊かさを見つける才能～

積水ハウスでは、1990年、けいはんな学研都市に総合住宅研究所を設立。住宅の基本性能を担う「技術研究所」、体験型すまいづくりの研究拠点「納得工房」、地球温暖化防止に取り組む「温暖化防止研究所」、そして、一人ひとりの豊かな暮らしと住まいをプロデュースする「ハートフル生活研究所」の4つの研究所で構成されています。



第一回 子どもの生きる力を育む住環境。

「子育ち」を
大切にする。

積水ハウスは、親の視点から考えた「子育て」はもちろん、子どもが自身の体験を通じて成長しようとする「子育ち」の視点を大切にしています。

では、子どもが豊かな体験を重ねながら、自ら成長する力、生きる力を育む住環境とは一体どのようなものでしょか?。

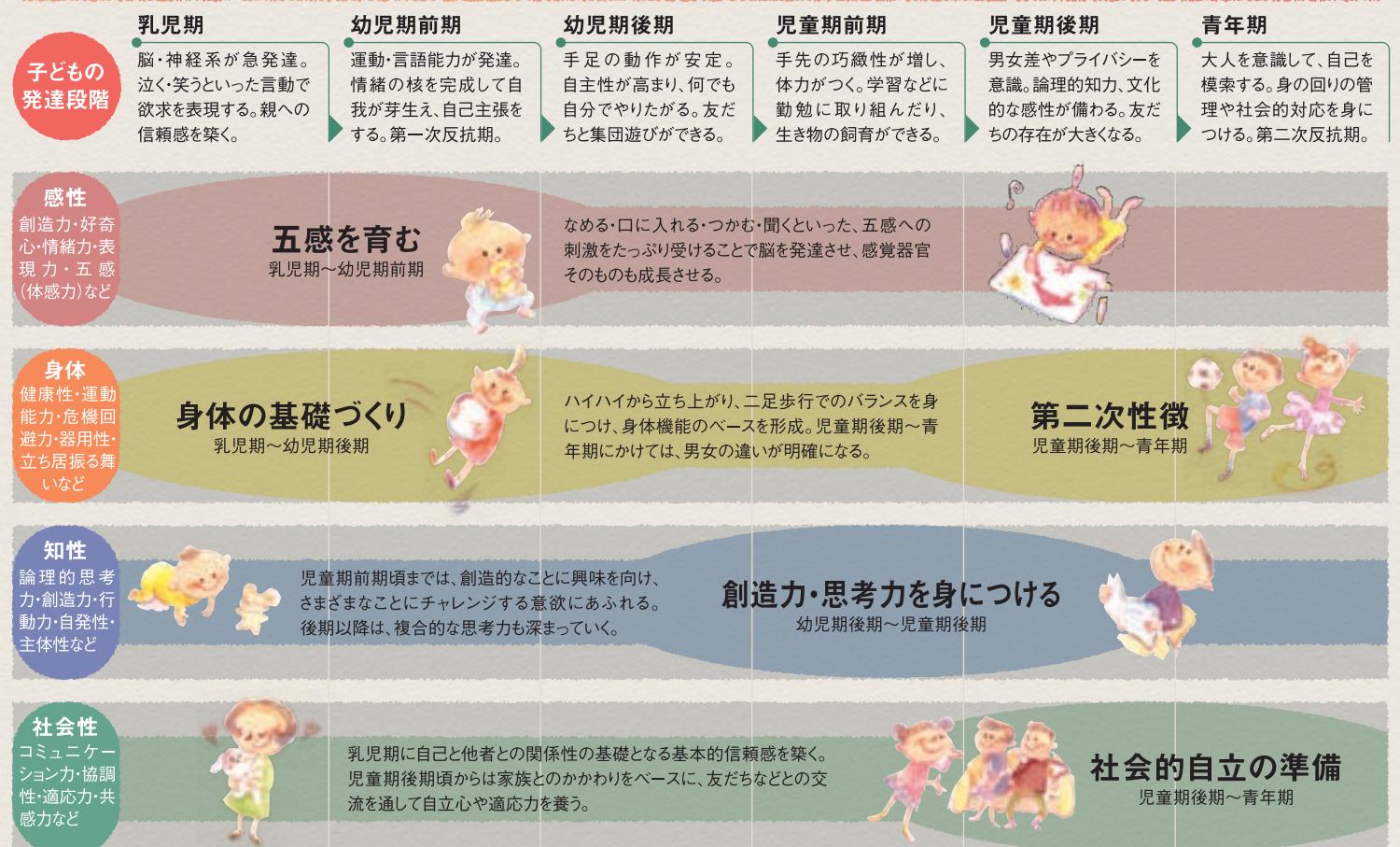
成長にあわせて
住環境を変えていく。

小学校に入る児童期になると、「一緒にいることだけではなく、「一緒にいること」よりも「一緒にすること」が大切になってきます。キッズチーンでお料理を手伝ったり、お片づけをしたり。家族と一緒にさまざまな体験をすることで、創造力や思考力が育まれてきます。また、家族との「コミュニケーションを通して、社会性も育まれていきます。

この頃は、勉強の習慣づけにも大切な時期。親の目が届きにくい子ども部屋だけではなく、リビングに親子で並んで学習できる「デスクコーナー」を設けると、子どもたちは安心して学習に取り組むことができるでしょう。

*生活リテラシー Literacy(英語本来の意味は、読み書きの能力)。OECD(経済協力開発機構)はその意味を拡大し、「生きるために必要な知識・技能・教養」と定義。私たち積水ハウスは、この言葉に「生活」を冠し、「生活リテラシー」という新しい概念を作りました。それは、暮らしと住まいをより豊かにする力…知識、教養、ノウハウという意味を込め、「自分流の豊かさを見つける才能」と呼んでいます。

子どもの重要発達期



キッズデザイン賞とは

キッズデザイン賞は、子どもの安全・安心の向上、健やかな成長発達に役立つデザイン（製品、コンテンツ、活動など）を顕彰し、表彰作品には“キッズデザインマーク”が付与されます。産官学民が“デザイン”的力を通じて生み出した子どもたちのための成果について、社会的、文化的な価値の見地から評価し、その優れたものの顕彰を通じて、産業・研究活動と子ども環境の高度化を図ることを目的としています。

— キッズデザイン賞を受賞 —

積水ハウスでは、「子どもの生きる力を育む住環境」を、「キッズでざいん」として発表・提案し、2007年8月、「第一回キッズデザイン賞」を受賞いたしました。この取組みを考え方は、グラーバウハイムを取り入れられていました。

ハートフル生活研究所の 研究内容をご紹介します

- 新しい暮らしと住まいの研究
 - ライフスタイル ■快眠 ■ペット
 - 子ども住環境 ■家事 ■シニア居住研究
 - 暮らしの安全安心の研究
 - ユニバーサルデザイン ■防犯 ■防災
 - 環境にやさしい暮らしの研究
 - ガーデンライフ ■スローライフ ■インドアグリーン

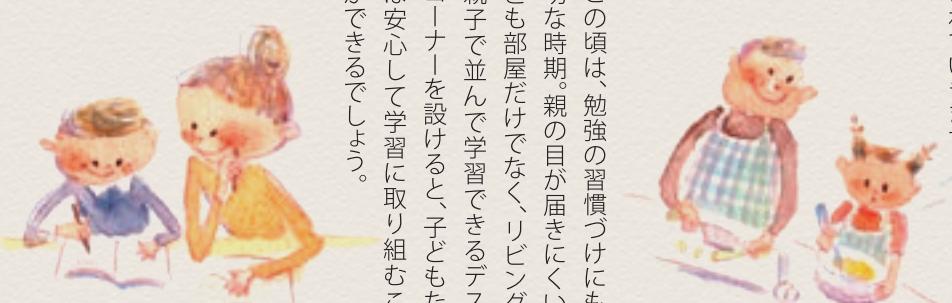


自然との豊かなつながりを持つ

住まいの中だけではなく、街中の森や水辺など、身近にある自然との豊かなつながりからも、子どもたちの「生きる力」が育まれていきます。



家族で収穫や手入れが楽しめる菜園ガーデニングは、食育に理想的です。たとえ都心居住であっても、土や緑とふれあえる環境をつくつておくことが重要です。



*生活リテラシー

Literacy(英語本来の意味は、読み書きの能力)。OECD(経済協力開発機構)はその意味を拡大し、「生きるために必要な知識・技能・教養」と定義。私たち積木ハウスは、この言葉に「生活」を冠し、「生活リテラシー」という新しい概念を作りました。それは、暮らしと住まいをより豊かにする力…知識、教養、ノウハウという意味を込め、「自分流の豊かさを見つける才能」と呼んでいます。